

ファッションタウン桐生「2012わがまち風景賞」 審査講評と審査経過

1 . 審査講評

『無意識の絵描き人』

久保田 真弓（久保田デザイン室代表）

選考案件は、審査当日の、皆の心が選び取った幾枚かの絵葉書である。この日手に取らなかった絵葉書も、絵になる「風景」であった。

「風景」は日本古来の言葉で、景とは光を意味し、風とは様子、状態、趣、様式を意味するという。仮にそうであるなら「風景」とは光の様子である。では光とは何だろう。この、光の意味を敢えて固めず、また固める必要も感じず、其々の場所が放つ多種多様な光を感じ取ればよいと初めてお招き頂いた審査会の推薦案件を周った。そうして浴びた九つの場の光は、視覚に映る一枚の絵に置き換えたとき、其々に場の力に満ち、全体像から細部に至るまで美しかった。そして場に力をもたらず最大の要因はそこに住まう人々であり、一枚の絵を作りあげる人々である。桐生は、この無意識の絵描き、職人達の恵みの宝庫である。案件を周りながら、一つだけ確信していた。光とは、彼ら無意識の絵描き人であると。私達はこの恵みを享受し、自信を持って世間に伝え続けて行ける「風景」が、あたりまえの様に身近にあることを感謝したい。

『生きた風景』

久保田 裕一（ACEぐんま代表）

今回初めて審査に参加させていただきました。現地視察会においては初めて訪れた場所も多数あり、地域を再発見するための有意義な機会となりました。

審査をするにあたりまして私が一番考慮させていただいたことは、一目見ただけで感じることのできる「風景」と、他には無い桐生らしさです。改めて自分の住む街を見つめ直す。そのことで普段何気なく通り過ぎてしまっていた建物なども背景とともに全体を眺めることができ、新しい魅力を感じることができました。今回の候補案件の中でも、私が特にその魅力を感じたのは吉田家住宅です。そこには、屋根の煙突から立ち上る煙や水車の水路跡、畑の豊かな作物、川の流れ、背景の山との調和など、説明が無くても感じられるありのままの生活感がありました。今も昔も長い時間変わらずに生きている素晴らしい風景だと感じます。その他の候補案件に関しましても魅力的な風景ばかりで、優劣を付けるのは難しく大変悩ましいことでした。10年以上続く「わがまち風景賞」において、まだまだこれだけの魅力的な候補があるということにこの街の奥深さを改めて感じております。わがまちの魅力を掘り起こし、もう一度見つめ直す。簡単なようで、普段はなかなか難しいことかと思えます。「わがまち風景賞」の今後の発展と末永い継続を祈っております。この度は貴重な機会をいただき大変ありがとうございました。

『2012 わがまち風景賞に参加して』

須永 みどり（群馬建築士会桐生支部女性副部長）

今回はじめて参加させていただきました。

桐生は「山紫水明」の地だと謂われておりますが、改めてその通りだと感じました。

受賞された物件は、水や緑に囲まれ、周囲の景観と一体となり、調和したものが選ばれております。西宮神社と鎮守の森、津久瀬集落、吉田家、大川家どれも自然の中にとけ込んで、柔らかな景観を造りだしていました。そしてその場所にいるだけで心穏やかな気持ちになりました。これらの風景は、これからも是非残しておいて欲しいと思いました。また藤直織物さんののこぎり屋根の工場、母屋等には桐生の織物の歴史を感じました。

参加したことで、今まで気づかなかった桐生を知り、また見直す事が出来ました。

『2012 わがまち風景賞審査に参加して』

山口 一郎（理化学研究所名誉研究員）

今回も絶好の晴天に恵まれ、柔らかな新緑が目にはみ、桐生の最も美しい時季を堪能した。バスは8時に出発、まず渡良瀬川に近い広沢の鋸屋根工場と屋敷を見学した後、川内、黒保根、大間々まで足を延ばしてから山手通りにもどり、細い小路の散策を楽しんで、鋸屋根と邸宅を訪ね、最後に梅田の山間の屋敷と鋸屋根を見せて頂いた。いずれも人工と自然の調和が見事であった。よく整頓された室内で動く機織り機、美しく積まれた石垣、緑と岩に囲まれた清流、急斜面を背にする大きな屋敷と部落、えびす講のにぎわいとは打って変わってひっそりとした西宮神社、そこから下り路地をたどってつきあたった大谷石の鋸屋根と落ち着いた屋敷、さらに吾妻山を背景に美しく手入れされた庭園と、伝統と斬新さを巧みに融合させた建築に感心した。梅田では山里の豪壮な邸宅と緑に囲まれた鋸屋根工場を見た。今回も桐生市周辺の多様性と奥深さをあらためて認識した。終始、丁寧に説明して下さった持ち主の方々の暖かさも桐生の豊かさを感じさせた。

『時が止まっていた』

八染 和弘（一般参加）

昨年度に引き続き、「わがまち風景賞」の現地視察および審査に参加させていただいた。今回視察した9案件の内、知っていたのは「西宮神社」1つで、他の案件は全く知らなかった。この知らなかった案件は、個人住宅や織物工場であり「風景」とは少し違うかとも思ったが、拝見させていただいてその内容には圧倒された。

「時が止まっていた」と思う。

個人住宅にして織物工場にしても、外観からは分からない歴史が建物の中に残されていた。とても個人では見る事が出来ない内容を見せていただいて、ありがたく、すばらしかった。西宮神社から本町1丁目、東久方町2丁目へは徒歩で移動したが、これもすばらしかった。案件視察は勿論だが、その移動途中に初めて通る路地もあり、その地域の歴史を含めて参加者皆さ

んのお話を聞きながら歩いたのは、とても楽しくそして勉強になった。

ただ、「楽しかった、良い風景だ」だけではいけない事もある。5月18日、文化審議会が桐生市本町一、二丁目周辺を「重要伝統的建造物保存地区」とする答申を行った。すばらしい事である。すばらしい事ではあるものの、20年かかったとの事。細かい問題点はわからないものの、この20年で失われてしまった物も沢山ある。そのようなお話も聞き、勉強になった。

『2012 わがまち風景賞審査に参加して』

台 善之（一般参加）

私はわがまち風景賞で推薦する物件は近代的な物と決めております。日々、街中を動き回中でそれに相応しい物件が存在するか目を光らせております。しかし今回は私の推薦する物件は審査の対象にはなりません。今回の審査では織物業（機屋）が3軒もありました。そのどれもが骨董品そのものという感じがしました。勿論、内部の織機だけでなくそれを覆う建物も含まれてのことです。これらは当然のことですが他の街には見られない光景です。その中でいろいろと考慮した結果、私は今でも現役で稼働している藤直織物に一票を入れさせていただくことにしました。とにかく織機がきれいなのが印象的でした。

前回の審査会の方が今回よりバラエティに富んでいるような感じがしました。また、今後はもっと新しい近代的な物件にも目を向けるべきであると思います。その中にはわがまち風景賞に相応しい物件が必ず存在しております。

『わがまち風景を観光に活かしては』

川池 三男（一般参加）

「わがまち風景」も年々の選定傾向をみたとき、偉業をなした個人的建物が多いことに気付く。それはまた、この事業の基本方針とされる産業と生活が連携し、かつ歴史の絡んだところが重視されている故であろう。

今回、選定された5件も高く評価される場所であるが、特筆される所をいくつか触れてみたいと思う。

西宮を含み美和神社、筆塚、荘厳さを加える石段、大きな樹々が配置されるなど「社の杜」として、桐生市内には希有な景観である。

「藤直織物」の住居は、安政時代を築年とする古さがあり、なお蔵入口が住居に直結していることは、大きな特徴であろう。

3連のノコギリ屋根工場は、今も現役で稼働していることを考えたとき、織都の歴史を今に伝えていることが高く評価できる。

「中村家住宅と津久瀬集落」があげられる。住宅は大型養蚕家屋である。明治元年の大火で焼失、その後の建築であるが、百数十年経過しても木組みの頑丈さから損傷もなく部屋づくりも美しい。裏手の老杉も景観を増す一助となっている。

珍しく人家の密集した集落だが中村・井出・小林の三氏が地内に分家を出していることに由縁があると思われる。

追記・・・10年をかけ衆知を結集した57件の「わがまち風景」は、桐生市の優れた景観地として広く周知し、観光に活かしては如何と思う。

『保存に向けた援助を』

竹澤 四郎（一般参加）

初めて「わがまち風景賞」の審査に参加させて頂きました。日頃、自分自身の街並みを含め気のつかない先人の知恵と工夫を改めて体感できたことは非常に有意義な一日でした。ややもすると世の中の便利さの中で忘れてしまいがちなことを思い出させて頂き懐かしさで一杯でした。

候補地の選定及び立案に敬意を表わして事務局皆様の御努力に感謝いたします。

残念ながら時代の趨勢で仕方がない状況であるが、何とか保存に向けて行政等の援助を希望してやまない。視察後入選案件の選出を行ったが参加者それぞれの思いもあり白熱した投票でありました。

これからは家族と一緒に歴代選出リストにある景色を改めてたずねて見たいと思っています。

『歴代わがまち風景賞も散策してもらいたい』

小島 良行（一般参加）

今年も昨年に続き自然美と建物の調和のとれた「西宮神社に昇る石段参道と鎮守の森」に高い評価が集まったことは、審査員の一人として非常にうれしかった。審査時に訪れたのは石段の参道と周辺のケヤキ等の巨木群なる鎮守の森は、「いやし」を与え、又ある時はえびす講の「にぎわい」、ある時は石段でのきものファッションショー、美和神社からの宵の出興し等、私達に深い感銘を与える風景である。今回受賞された吉田家住宅は、石垣と旧水車が印象的であり、旧大川家は桐生川と建築物がマッチした風景であった。桐生・本町1・2丁目と天満宮地区が「重伝建」に5/18文化審議会で答申され、7月官報告示となった。この「桐生新町重伝建群」の地区内に歴代のわがまち風景賞が9ヶ所、重伝建群周囲に10数ヶ所受賞されている。これを機会に「わがまち風景賞」散策マップ等を作り多くの人達に重伝建地区及び周辺の「歴代わがまち風景賞」を散策し堪能してもらいたい。駐車場も書上交流広場（NPO 本一・本二まちづくりの会管理無料16台）を始め、他にも有りますので、関係者と話し合えば解決出来ると思います。

『桐生特有の個性に感動』

毒島 信八（一般参加）

2012わがまち風景賞選定に当たり審査委員として普段見学出来ない由緒ある建物を所有者から物件の歴史や逸話をお聞きし奥深さを感じた。自然環境に恵まれた優良資産家の物件、桐生特有の個性ある都市景観、繁栄を留めた産業遺産に表現出来ない程の感動をした。

だが、心が病んだ。やがて朽ちる運命にある様で再生する方法はないものかと思えた。機音

で生まれ育った私は、ノコギリ屋根と機音、それも昔ながらの「ガシャン、ガシャン」と言う鉄の響き、これは紛れも無い、桐生が全国に誇れる個性ある街の音の景観ではないだろうか！！

広沢の藤直織物は築180年と有力機屋の風格と偉観を今に伝える鬼互蔵や部屋の構成、趣のある庭園、工場に入れば織物博物館と思える時代の道具が現役として動いている。これはすごいこと。

寄宿舎にはかつて大ぜいの女工さんが働き、その活気が見える様である。

狭い福島街道を隔てて藤生家住宅と相まったこの辺りの景観は生活者の息吹が感じられ、市民の郷土を見る目、愛する心になればとの思いで推薦させて頂いた。

『貴重な体験と新たな発見』

大山 松男（一般参加）

今回10箇所の対象物件を見学できたことは私にとって貴重な体験で、この経験をしなければ、桐生の繁栄を支えて来た優れた織物産業の歴史的建造物に触れる事は無かったと思います。また、「西宮神社に上る石段参道と鎮守の森」も審査対象として改めて見学すると全く違ったものになります。今まで、えびす構や初詣の賑いの中で参詣し、気付かずに来た歴史的価値と崇高な佇まいが改めて見えてきました。また、既に廃業しているノコギリ屋根の織物工場は傍観者として価値がわからずに過ごしてきた自分が間違っていた事に気が付いたものです。桐生の町を特徴付ける上でノコギリ屋根の価値についてであります。藤直織物さんは現在もジャガードの織機が盛んに活躍していて、ご自宅と工場の建造物全体が景観だけでなく活動している事が桐生市民に勇気と誇りを与えてくれる財産であります。川内の吉田家住宅は山田川の水を水車に利用して織物業を営んで来た姿を今に残している(水車は現存していないが)この景観は多くの方にお見せしたいものです。また、西宮神社から金子家に到る道歩きはまさにタイムスリップした思いで楽しいものでした。曾我家における歴史的街割りや金子家におけるハイセンスなりニューアルは一級の価値を感じます。今回の全ての対象物に於いて認定したい気持ちで一杯になりました。

2 . 審査経過

「2012わがまち風景賞」は、平成24年3月から4月中旬まで案件の募集を行った。

今回の募集チラシは、桐生市教育資料室の協力を得て、昭和30年代の水道山公園から少女が町を見渡している写真を全面に使用した。募集方法は、関係機関にチラシを配布し、応募ポストは市内3か所(有鄰館、市民活動推進センターゆい、桐生商工会議所ロビー)に設置した。また、前回と同じく、桐生タイムス(3月23日発行)にチラシを折り込み、多くの市民に対する本プロジェクトの周知に努めた。その結果、推薦・応募案件は、延べ51件にのぼった。



今年もプロジェクトチームが意見を集約し、現地審査を行う案件を4月28日に事前見学し絞りこんだ。

審査委員会は5月12日(土)に開催された。午前8時に桐生商工会議所会館をバスが出発。審査委員15人、プロジェクトメンバー9人、事務局3人を加えて、総勢27人の参加となった。視察は黒保根町、旧市内から全9件で次のようなコースを回った。

藤直織物 小武織物 吉田家住宅

宅 中村家住宅と津久瀬集落 桐生西宮神社 曾我家住宅 金子織物 青木家住宅
大川家住宅

当日は晴天に恵まれ、新緑の山々を見ながら気持のよい一日となった。各審査委員のコメントも参照していただきたい。

現地視察では、普段はなかなか立ち入ることのできない建物内部を見学させてもらい、所有者からは家業の歴史や思い出話を伺うことができた。

また、今回初めての試みとして市外の事例も視察した。みどり市大間々町の店舗を約100年ぶりに大改修し、リニューアルオープンした「岡直三郎商店」。しょうゆの仕込みの様子も見学することができた。

視察後は、商工会議所に戻り入選案件の投票を行った。今年の候補全9件に対するそれぞれの思いや意見が活発に発表され、審査は白熱。投票の結果、「2012わがまち風景賞」5案件が選出された。

